



長期ビジョン2033 (2024年4月～2034年3月)

新家工業株式会社

2024年02月22日

証券コード7305

目次

1. 環境認識と事業機会	・・・2
2. 長期ビジョン	・・・3
3. 事業ポートフォリオの方針	・・・4
4. 財務計画・目標	・・・5
5. キャピタルアロケーション	・・・6
6. 戦略ロードマップ	・・・7

1. 環境認識と事業機会

10年後を見据えた経営環境変化（メガトレンド）

経済環境の変化

- 国内需要は人口減少により縮小
- グローバルは人口増加により拡大
- ASEAN等、新興国需要の増加

消費者の変化

- 脱炭素関連需要の増加
- 顧客需要の多様化、小ロット化
- トレンドの短期化

グローバル競争の変化

- 安価な海外製品の流入
- 地政学リスクの高まり
- 国内企業のBCP需要の高まり

技術革新の進展

- カーボンニュートラル等環境関連技術の進展
- デジタル技術の進展

ESG・SDGsへの関心高まり

- 脱炭素・排出権取引
- 再生・省エネルギー政策
- サステナビリティへの関心高まり

新規参入・代替品の脅威

- 流通業者など他業種からの参入
- 他素材へのシフト

当社にとっての事業機会

製品の高機能・高付加価値化

- 国内需要は減少、海外との競争により輸出も減少、構造変化が顕在化
- 価格競争に陥らない競争力のある高機能・高付加価値製品の提供が必要

環境・社会課題対応需要の増加

- 脱炭素、循環型社会の移行に向けた世界規模での環境関連技術への需要高まり
- AI・IoT等、デジタル技術革新への対応も必要

グローバル市場の拡大

- 新興国需要によりグローバルでは需要は増加

2. 長期ビジョン

モノづくりへのこだわりで世の中の課題をカタチに変える。

～変化と変革により世の中のニーズに応えるソリューション製造業としての地位を確立～

◆ 長期ビジョン2033基本方針

成長戦略

1. 研究開発の強化・促進

- ・ グループ研究開発の強化、新規ビジネスの推進

2. M&A戦略

- ・ 水平・垂直統合による事業領域拡大、技術・販路獲得

3. グローバル戦略

- ・ インドネシア現法を起点としたASEAN市場の開拓

経営基盤（コア事業）強化

1. 工場刷新

- ・ 主要工場の刷新、生産能力・販路の拡大、コスト削減

2. デジタルトランスフォーメーション

- ・ AI・IoT活用による工場自動化、業務効率化

3. 資本効率改善

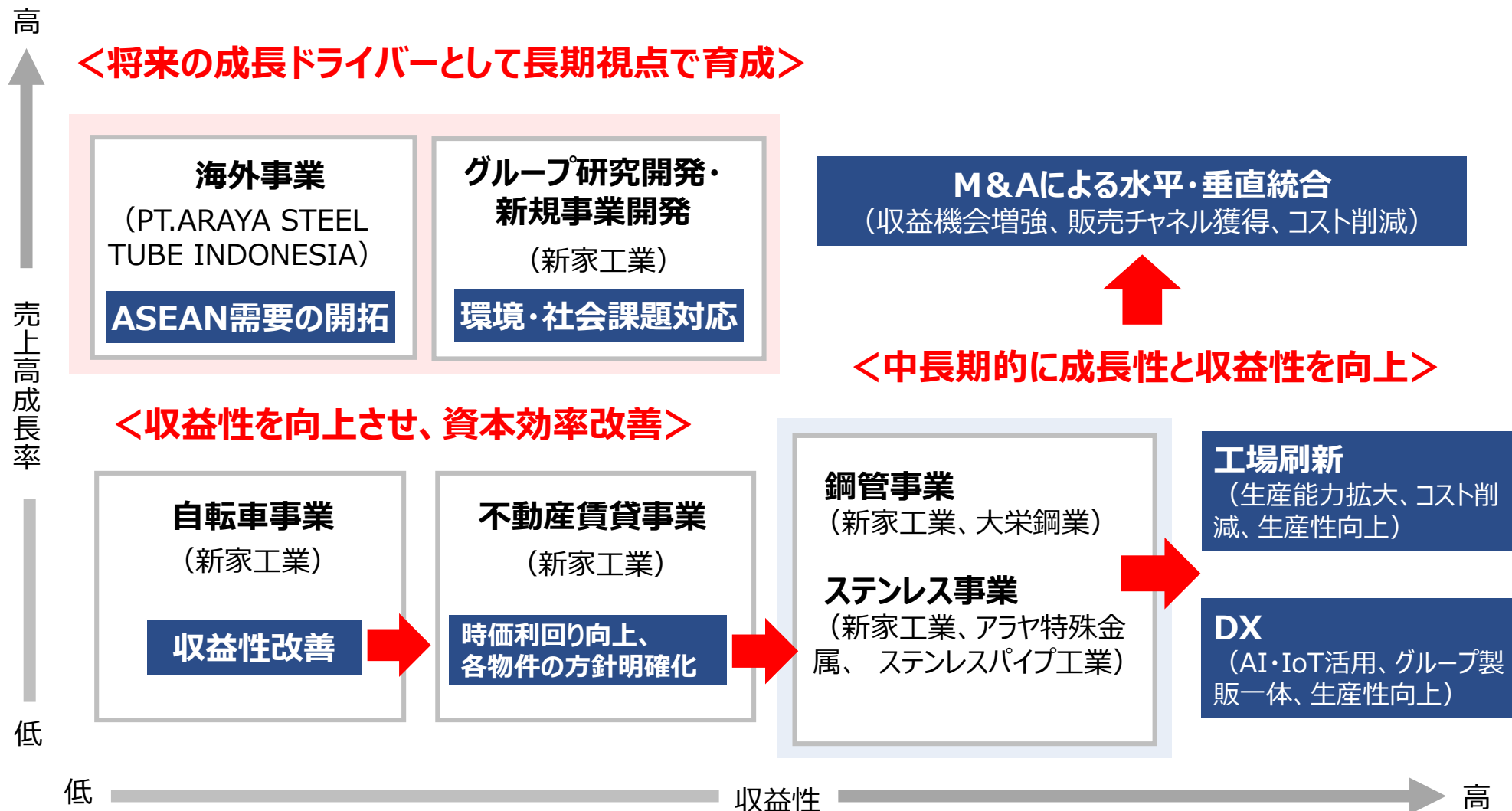
- ・ 事業ポートフォリオマネジメント、不動産の方針明確化

環境（E）社会（S）ガバナンス（G）の視点

グループ経営・ガバナンス強化、脱炭素推進、多様な人材確保と育成、DX（グループ情報一元管理）

3. 事業ポートフォリオの方針

- 今後は成長性と収益性の2軸で事業ポートフォリオを管理し、全社視点で経営資源を最適化



4. 財務計画・目標

【連結経営指標計画・目標】

(百万円)

	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期	2034年3月期
売上高	42,700	45,600	46,700	-
営業利益	2,200	2,900	3,500	営業利益率 10.0%以上
経常利益	2,400	3,100	3,700	-
当期純利益	1,700	2,100	2,600	-
R O E	5.1%	6.4%	7.7%	10.0%以上
資本コスト	6.0～8.0%			6.0～8.0%
P B R	0.7倍	0.8倍	1.0倍	1.0倍超

5. キャピタルアロケーション

- 営業キャッシュフローと政策保有株式等の売却代金を原資として、今後10年間で積極的な投資を行う。株主への利益還元としては配当性向50%を維持し、株主還元の充実を図る。

2024～2026年度（次期中計）

2027年度～2033年度

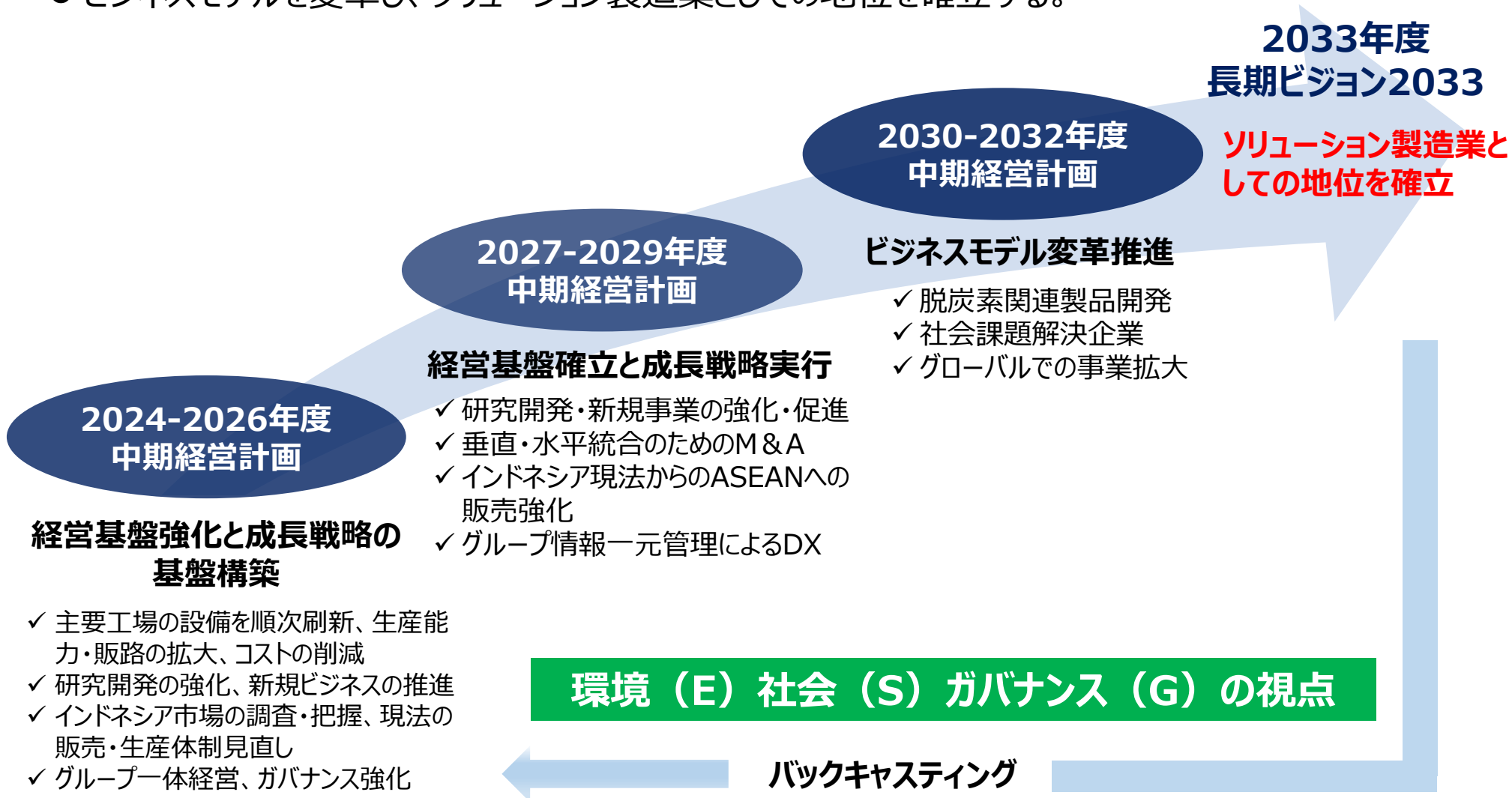
営業キャッシュフロー

借入・資産圧縮等

経営基盤強化 （コア事業）	30億円 ■ 生産能力向上・販路の拡大、生産体制再構築、DXの推進 ■ グループ体制再編	150億円 ■ 工場刷新、新ラインの導入等 ■ グループ全体のDX推進
成長戦略投資	20億円 ■ 研究開発強化、新規ビジネス推進 ■ 海外事業拡大	50億円 ■ 海外事業拡大 ■ M&A、資本提携、アライアンス
サステナビリティの 実現に向けた投資	10億円 ■ 脱炭素・環境関連研究開発 ■ 人的資本投資	40億円 ■ 脱炭素・環境関連設備の導入 ■ 人的資本投資
株主還元	配当性向50% ■ 自己資本の拡大を抑制し、機動的な株主還元の実施 ■ 不動産等のキャッシュインを活用した下限配当100円の実施	配当性向50% ■ 自己資本の過度な積み上げを抑制し、適宜株主還元の実施を検討

6. 戦略ロードマップ

- 長期ビジョン2033からバックキャストで2024-2026年度中期経営計画を策定。
- ビジネスモデルを変革し、ソリューション製造業としての地位を確立する。



MEMO



ディスクレーマー

本資料は投資家の参考に資するため、新家工業株式会社（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として作成したものです。本資料に記述されている業績予想ならびに将来予測は、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。よって、その完全性を保証するものではなく、様々な要因の変化で実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

以上を踏まえた上で、投資の決定はご自身の判断と責任でなされますようお願い申し上げます。